



Amir Tsarfati

2020年10月2日「イスラエルという名の奇跡」

今朝のメッセージは「イスラエルという名の奇跡」です。私がこのメッセージの必要を強く感じた理由は、ここ数ヶ月の間、最も恐ろしい反ユダヤ主義的な内容を、いわゆる”新生したクリスチャン”が吐き出しているのを目にしているからです。彼らは文字通り、ナチスのプロパガンダ、神が御言葉の中で一度も言っていない事をイエスの御名で唱えていて、彼らの病んだ心を証明しています。さて、それが1人か2人だったら、まあ、しょうがないと思います。しかし、彼らは影響力のある人々で、中にはソーシャルメディアで何十万人ものフォロワーを抱えています。だから、ちょっと教育した方が良いかも知れないと感じました。ちなみに、私達全員が教育を受けて、何度も何度も思い出すべきだと思えます。イスラエルの役割に関して私達が理解する事の重要性、また、それが私達にどう反映し、神はそれをどう見ておられるのか。

まずは、マラキ書の一節を引用することから始めます。皆さんは彼を”マラカイ”と呼びますね。私達は「マラヒ」と呼んでいますが、その中間は「マラチ」（イタリア語）です。では、メッセージを始める前にマラキ書3:6を引用したいと思います。

「主であるわたしは変わることがない。そのため、ヤコブの子らよ、あなたがたは絶え果てることはない。」

メッセージ全体を通して、この聖句を覚えておいてください。なぜなら、主は変わる事が出来ず、変わる事はないので、イスラエルは絶え果てることはありません。イスラエルの存在と存続は、神の不変のご性質を語っています。私達は、それを忘れてはいけません。もし皆さんが、イスラエル国家に対する神の考えが変わると思っているなら、実際あなたは違う神を説いています。それではメッセージを始めましょう。

「イスラエルという名の奇跡」まず、はじめに「奇跡」は神の言語の一つです。皆さんご存知ですね。神は奇跡の神です。実際、人々の注目を集めるために、神は何度も何度も奇跡を起こされました。これは神です。それが神のご性質です。今のこれが、まさに「奇跡」だと多くの方が思っていると思います。こんにち（2020年）9月、教会での集会は「奇跡」です。イスラエルの物語は、一つの長い奇跡であることを知っていただきたいのです。私これが言う理由は、イスラエルの歴史における神の役割を理解すれば、これは人が作った物語ではなく、神の目的のために神がお作りになった国家であることが分かるからです。この間私が確認したところ、神は皆さんの意見には興味がありません。神は一度も言っていません…見てください。

「わたしはアブラハム、イサク、ヤコブとその子孫を選んで、全世界に、唯一神への信仰をもたらし、全世界に聖書をもたらして、それから、全世界に神の御子、メシア、受肉した神をもたらす。わたしは、あなたがたの許可は求めていない。わたしは、それを行う。」しかし、今朝は、現代のイスラエルについてお話ししたいと思います。なぜなら、これが非常に多くの人々が争っていることの1つですから。彼らは、このように考えているようです。「旧約聖書のイスラエルがあり、新しく生まれたイスラエル国家は不当だ。それは神のものではなく、悪魔的で、ユダヤ人は、もはや存在しない。」とか。ですから、もし神が同じであるならば、過去にことを始められた神が、世代を通していかに奇跡を起こされたかを見てみましょう。まず、神がいかにして人々に働かれたか、それから、神の信じられないような行動を見て、そして今日のポイントに入ります。皆さんの目が開かれ、理解されることを願います。私達には偉大な軍隊があるかも知れません。しかし、私達は軍隊の力で戦争に勝ったのではありません。私達には素晴らしい博士達がいるかも知れませ

ん。また、素晴らしい…お聞きください。イスラエルは、この大変な戦争の最中に、そのサクセスストーリーの手柄を取ることはありません。

すべては神の力ですから。そこで、創世記17章のアブラハムから始めようと思います。神はアブラハムに言われました。

「『あなたの妻サライは、その名をサライと呼んではならない。その名はサラとなるからだ。わたしは彼女を祝福し、彼女によって、必ずあなたに男の子を与える。わたしは彼女を祝福する。彼女は国々の母となり、もろもろの民の王たちが彼女から出てくる。』アブラハムはひれ伏して、（何？）笑った。」

（15節から17節a）

想像できますか？神が真剣に話しておられるのに、彼はただひれ伏して、「主よ、感謝します」ではなくて？笑っています。まあ、その年代の人に子供が生まれることを話すのはおかしいと思いますよ。でも、考えてみてください。

「そして、”心の中”で言った。『百歳の者に子が生まれるだろうか。サラにしても、九十歳の女が子を産めるだろうか。』そして、アブラハムは神に言った。「どうか、イシュマエルが御前で生きますように。」そして、神は言われます。「わたしは、そんな事は言っていない。」「神は仰せられた。『いや、…』」

（17節bから19節a）

その言葉を言えますか？いや。面白いと思いませんか？時々私達は、神の言われたこととは違う解釈をします。そして神はこう仰います。「いや、わたしは、そんな事は言っていない。」

「いや、あなたの妻サラが、あなたに男の子を産むのだ。あなたはその子を（何？）イサクと名付けなさい。わたしは彼と、わたしの契約を立て、それを彼の後の子孫のために永遠の契約とする。」（19節b）

皆さん、なぜ和平協定が「アブラハム合意」と呼ばれたのだらうと思っていますか？それは、私達に同意出来るのは、そこまでだからです。アブラハム。アブラハムの直後、神がこの土地を与えようとお選びになったのは誰か？イシュマエルではありません。だからアブラハムで止めるのです。皆、アブラハムには同意しますから。そして、面白い事にイサクが来ます。そして創世記25章19節には、

「これはアブラハムの子イサクの歴史である。アブラハムはイサクを生んだ。イサクが…リベカを妻に迎えたときは、40歳であった。」（20節）

あなたが40歳で、まだ独身なら、希望がありますよ。あきらめないでください！

「…パダン・アラムのアラム人ベトエルの娘で、アラム人（シリアの）ラバンの妹であるリベカを妻に迎えた…。イサクは、自分の妻のために主に祈った。彼女が不妊の女だったからである。主は彼の祈りを聞き入れ、妻リベカは身ごもった。」（20節から21節）

もう一つの奇跡。

「子どもたちが、彼女の腹の中でぶつかり合うようになったので、彼女は『こんなことでは、いったいどうなるのでしょうか、私は』と言った。そして、主のみこころを求めに出て行った。すると主は彼女に言われた。「二つの国があなたの胎内にあり、二つの国民があなたから分かれ出る。一つの国民は、もう一つの国民よりも強く、兄が弟に仕える。」（22～23節）

ちなみに、それは当時のあらゆる伝統や習慣とは正反対のことです。もう一つの奇跡。もう一つの「神の道は、我々の道とは異なる」こと。

「神の思いは我々の思いと異なる」（イザヤ書55:8参照）

次に、創世記32:22のヤコブに移ります。

「しかし、彼はその夜のうちに起きて、ふたりの妻と、ふたりの女奴隷と、十一人の子どもたちを連れて、ヤボクの渡し場を渡った。彼らを連れ出して流れを渡らせ、自分の持ち物も渡らせた。ヤコブはひとりだけ、あとに残った。すると、ある人が夜明けまで彼と格闘した。ところが、その人は、ヤコブに勝てないのを見てとって、ヤコブのもものつがいを使ったので、その人と格闘しているうちに、ヤコブのもものつがいははずれた。するとその人は言った。「わたしを去らせよ。夜が明けるから。」しかし、ヤコブは答えた。「私はあなたを去らせません。私を祝福してくださなければ。」

この格闘は、殺すためではありません。目的は何でしたか？

「私を祝福してください。その人は言った。『あなたの名は何というのか。』彼は答えた。『ヤコブです。』
「その人は言った。『あなたの名は、もうヤコブとは呼ばれない…』（23節から28節a）

それがイスラエルの名前の誕生です。この章です。なぜイスラエル？「イスラ-エル」とは、基本的には神との格闘、または、神によって制御されることを意味します。見てください。なぜイスラエルなのか？

「あなたは神と戦い、人と戦って、（何？）勝ったからだ」ヤコブが、『どうかあなたの名を教えてください。』と尋ねると、その人は、『いったい、なぜ、あなたはわたしの名を尋ねるのか』と言って、その場で彼を祝福した。（28節bから29節）

ヤコブは神と格闘し、神はヤコブを祝福されました。それから、彼の息子の一人、末っ子ヨセフは創世記41章37節

「このことは、パロとすべての家臣たちの心になかった。そこでパロは家臣たちに言った『神の霊の宿っているこのような人を、ほかに見つけることができようか。』パロはヨセフに言った。『神がこれらすべてのことを、あなたに知らされたのであれば、あなたのように、さとくて知恵のある者はほかにいない。あなたは私の家を治めてくれ。私の民はみな、あなたの命令に従おう。』（38節から40節a）

興味深くないですか？おそらくリベカ…ここで主が彼女の胎内にいる者と、その子孫について、彼女に言われたことを思い出してください。ほら！偉大なるエジプト。小さなヨセフ。彼はエジプト人でさえありません。それが今や、（何ですか？）

「…あなたの命令に従おう。私があなたにまさっているのは、王位だけだ。』パロはなおヨセフに言った。『さあ、私はあなたにエジプト全土を支配させよう』そこで、パロは自分の指輪を手からはずして、それをヨセフの手にはめ、亜麻布の衣服を着せ、その首に金の首飾りを掛けた。そして、自分の第二の車に彼を乗せた。そこで、人々は彼の前で、『ひざまずけ』と叫んだ。こうして彼にエジプト全土を支配させた。パロはヨセフに言った。『私はパロだ。しかし、あなたの許しなくしては、エジプト中で、だれも手足を上げることもできない。』パロはヨセフにツァフェナテ・パネアハという名を与え、オンの祭司ポティ・フェラの娘アセナテを彼の妻にした。こうしてヨセフはエジプトの地に知れ渡った。（40節bから45節）

すごいですね。エジプトと言えば、出エジプト記2:23で、

「それから何年もたって、エジプトの王は死んだ。イスラエル人は労役にうめき、わめいた。彼らの労役の叫びは神に届いた。神は彼らの嘆きを聞かれ、（何？）アブラハム、イサク、ヤコブとの契約を思い起こされた。（23節から24節）

当時のイスラエルは、神を礼拝していませんでした。当時のイスラエルは、神を知りませんでした！彼らは、主の御名すら知りませんでした！しかし、神はアブラハム、イサク、ヤコブとの契約を覚えておられました。

「神はイスラエル人をご覧になった。神はみこころを留められた。」 (25節)

それから、もちろん、モーセが来ました。

「神はモーセに告げて仰せられた。『わたしは主である。わたしは、アブラハム、イサク、ヤコブに、全能の神として現れたが、主という名では、わたしを彼らに知らせなかった。またわたしは、カナンの地、すなわち彼らがとどまった在住の地を、彼らに与えるという契約を、彼らに立てた。今わたしは、エジプトが奴隷としているイスラエル人の嘆きを聞いて、わたしの契約を思い起こした。それゆえ、イスラエル人に言え。『わたしは主である。わたしはあなたがたをエジプトの苦役の下から連れ出し、労役から救い出す。伸ばした腕と大いなるさばきとによってあなたがたを贖う。わたしはあなたがたを取ってわたしの民とし、わたしはあなたがたの神となる。あなたがたは、わたしがあなたがたの神、主であり、あなたがたをエジプトの苦役の下から連れ出す者であることを知るようになる。わたしは、アブラハム、イサク、ヤコブに与えると誓ったその地に、あなたがたを連れて行き、それをあなたがたの所有として与える。わたしは主である。』 (出エジプト記6:2~8)

国連に、ではありません。私は国連(UN)をUnitedNothing (何にもしない連合)、またはUnnecessary (不必要)と呼んでいます。UN (国連) ではありません。US (アメリカ) ではありません。EU (欧州連合) ではありません。ユーユー (あなたがた) ではありません。主は言われました。「それを、あなたがたの所有として与える。」 どうして？「わたしは主である。」それから、ヨシュア記21:43は、皆知っているところです。

「こうして主は、イスラエルの先祖たちに与えると誓った地をすべて、イスラエルに与えられたので、彼らはそれを占領して、そこに住んだ。主は、彼らの先祖たちに誓ったように、周囲の者から守って、彼らに安住を許された。」

「イスラエルの先祖たちに与えると誓った地をすべて」です。覚えておいてください。それはずっとです。

「すべての敵の中で、ひとりも彼らの前に立ちはだかる者はいなかった。主はすべての敵を彼らの手に渡された。主がイスラエルの家に約束された、すべての良いことは、一つもたがわず、みな実現した。(44節aから45節)

それからサムエルが来ますが、彼は超苦悩しました。国が本当に神に従っていなかったから。

主はサムエルに仰せられた。「彼の容貌…を見てはならない」 (第一サムエル記16:7a)

サムエルは今、イスラエルのために神が選ばれる王を探しています。そして主は仰いました。「ほら、サムエル、前回サウルを選んだ時のことを覚えているか？何を基準にしていたか？彼は背が高く美男子だった。」

「『彼の容貌や、背の高さを見てはならない。わたしは彼を退けている。人が見るようには見ないからだ。人はうわべを見るが、主は心を見る。』エッサイはアビナダブを呼んで、サムエルの前に進ませた。サムエルは、『この者もまた、主は選んでおられない』と言った。エッサイはシャマを進ませたが、サムエルは、『この者もまた、主は選んでおられない』と言った。こうしてエッサイは七人の息子をサムエルの前に進ませた。」

せたが、サムエルはエッサイに言った。『主はこの者たちを選んではおられない。』サムエルはエッサイに言った。『子どもたちはこれで全部ですか。』エッサイは答えた。『まだ末の子が残っています。あれは今、羊の番をしています。』」（第一サムエル記16:7から1節a）

ちなみに、彼はきっと、そう言いながら、（鼻をつまんで）こんなことをしたはずですよ。当時の羊飼いは、他の人たちから避けられていたのです。彼らの証言は法廷で通用しませんでした。だから、エッサイが神の預言者サムエルの前に連れてこないのも不思議ではありません。

「サムエルはエッサイに言った。『人をやって、その子を連れて来なさい。その子がここに来るまで、私達は座に着かないから。』エッサイは人をやって、彼を連れて来させた。」（11節bから12節a）

きっと彼は、こんな風に立っていたんでしょう...その子が来るまで。「その子は血色の良い顔で…」皆さんは、これをどう言いますか？「血色が良い」？原語がヘブライ語でよかったです。

「…目が美しく、姿もりっぱだった。主は仰せられた。『さあ、この者に油をそそげ。この者がそれだ。』」（12節b）

そしてサムエルは...

「サムエルは油の角を取り、兄弟たちの真ん中で彼に油を注いだ。主の霊がその日以来、ダビデの上に激しく下った。サムエルは立ち上がってラマへ帰った。」（13節）

第二サムエル記5:1で、ダビデについて書かれている事をご覧ください。

「イスラエルの全部族は、ヘブロンのダビデのもとに来てこう言った。『ご覧の通り、私達はあなたの骨肉です。これまで、サウルが私達の王であった時でさえ、イスラエルを動かしていたのは、あなたでした。しかも、主はあなたに言われました。【あなたがわたしの民イスラエルを牧し、あなたがイスラエルの君主となる。】』イスラエルの全長老がヘブロンの王のもとに来たとき、ダビデ王は、ヘブロンで主の前に、彼らと契約を結び、彼らは、ダビデに油をそそいで、イスラエルの王とした。」（2節から3節）

そしてダビデの死後、ソロモンがやって来ました。さてソロモンですが、彼はかなり良いスタートを切りました。覚えてますか？そして彼は最初の物理的、かつ恒久的な神の家である最初の神殿を建てました。そして、第一列王記3:6の、あの素晴らしい式典です。

「ソロモンは言った。『あなたは、あなたのしもべ、私の父ダビデに大いなる恵みを施されました。それは、彼が誠実と正義と真心をもって、あなたの御前を歩んだからです。あなたは、この大いなる恵みを、彼のために取っておき、きょう、その王座に着く子を、彼にお与えになりました。我が神、主よ。あなたは私の父ダビデに代わって、このしもべを王とされました。しかし、私は小さな子どもで、出入りするすべを知りません。そのうえ、しもべは、あなたの選んだあなたの民の中にあります。』」（7節から8節a）

何の民ですか？言ってください。「あなたの選んだ民。」

『しかも、彼らはあまりにも多くて、数えることも調べることもできないほど、おびたしい民です。善悪を判断して、あなたの民をさばくために聞き分ける心を、しもべに与えてください。…』」（8節bから9節）

さて、もう一人…彼ら、聖書の中の登場人物を通して、神が、どのように働かれたか分かりますか？誰一人として完璧ではありませんでした。ダビデについて話したいですか？ソロモンについて話したいですか？イスラエルの民が砂漠で経験したこと、すべてについて話したいですか？モーセについて話したいですか？皆

さん…そこには行かないようにしましょう。しかし神はまた、奇跡的な出来事もなさいました。人々の人生の中の出来事を通してだけでなく、出エジプト記3:7の燃える柴のような驚くべき出来事。

「主は仰せられた。『わたしは、エジプトにいるわたしの民の悩みを確かに見、追い使う者の前の彼らの叫びを聞いた。わたしは彼らの痛みを知っている。わたしが下って来たのは、彼らをエジプトの手から救い出し、その地から、広い良い地、乳と蜜の流れる地、カナン人、ヘテ人、エモリ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人のいる所に、彼らを上らせるためだ。見よ。今こそ、イスラエル人の叫びはわたしに届いた。わたしはまた、エジプトが彼らをしいたげているそのしいたげを見た。今、行け。わたしはあなたをパロのもとに遣わそう。わたしの民イスラエル人をエジプトから連れ出せ。』」(8節から10節)

そこで10の災いと奇跡的な出来事が起こったのを知っています。それから、雲の柱と火の柱。想像できますか？100万人を超える国民全員が砂漠を歩いていて、昼間は雲の柱があり、夜には火の柱があるのです。それが普通の事に聞こえますか？ですから、意味が分かりません。旧約聖書を通して、イスラエルの民の上に神の御手の驚くべき奇跡が行われる事には何の疑問も持たない人達が、こんにち、神が動いておられる事を理解出来ないのです。今は、「うーん…」と。携挙は言うまでもありません。彼らはエノクがいなくなっても、エリヤが馬車で運ばれても問題はありません。しかし、教会の携挙について話すと、「それは起こりえない。」紅海が分かれた事は？冗談でしょ？海のそばに立って、それが分かれた事がありますか？ちなみに、その場所が見つかったのです。エジプト側とサウジ側の間に陸橋を見つけました。それから、陸橋をたどっていくと、そこでエジプトの戦車の車輪が見つかったのです。そして、サウジ側に渡って、聖書に書かれている道をたどっていくと、頂上が完全に焼けている山にたどり着き、そしてその横には、真ん中で割れた巨大な岩が立っているのです。信じない？YouTubeをご覧ください。サウジアラビアの王子の一人の主治医であった韓国人のキム先生は、そこに残るように頼まれて…彼は代替医療も行って、その王子を本当に助けたのです。だから王子は彼に尋ねたのです。「どうすれば、ここに残ってくれますか？」そしてキム医師は言いました。「あなたの王国を邪魔されず見せてもらえるなら。」それで王子は彼に許可を与え、信仰深い、聖書信者であるキム先生はジープでサウジアラビア中を旅しました。そして、彼は軍事封鎖区域の山にたどり着きました。誰も入ることが許されていません。そこで彼は許可証を見せて、車でずっと中まで入って行きました。驚いたことに、聖書に記されている、イスラエルの民に起こったことのすべてが彼の目の前にあったのです。そこが軍事閉鎖地帯になっていたのも納得です。ですから、皆さんにお伝えしたいのです。イスラエルの民のことを誰もが耳にしていました。荒野でのイスラエルの旅の最中、彼らはずっと神に対しても、モーセに対しても態度が悪く、それでも、主は約束を守られました。それから、もちろん他の国々の王たちは、その国のことを聞いていました。「彼らは戦い方さえ知らない。しかし、彼らはすべての戦いに勝利している。」そして、モアブの王バラクは、「これは、別の戦略が必要だ。物理的に戦うのは無理だ。霊的に呪おう。」そこで彼はイスラエルの民を呪文で呪うために、バラムという人を雇いました。

「主はバラムの口にことばを置き、そして言われた。『バラクのところに帰れ。あなたはこう言わなければならない。』それで、彼はバラクのところに帰った。すると、モアブのすべてのつかさたちといっしょに、彼は自分の全焼のいけにえのそばに立っていた。バラムは、彼のことわざを唱えて言った。『バラクは、アラムから、モアブの王は、東の山々から、私を連れてきた。【来て、私のためにヤコブをのろえ。来て、イスラエルに滅びを宣言せよ。】」(民数記23章5節から7節)

そして、彼が言ったことをご覧ください。

「神がのろわない者を、私がどうしてのろえようか。主が滅びを宣言されない者に、私がどうして滅びを宣言できようか。岩山の頂から私はこれ(イスラエル)を見、丘の上から私はこれを見つめる。見よ。この民はひとり離れて住み、おのれを諸国の民の一つと認めない。誰がヤコブのちりを数え、イスラエルのちりの群れを数ええようか。私は正しい人が死ぬようにしに、私の終わりが彼らと同じであるように。」(8節から10節)

さて、イスラエルは完璧でしたか？いいえ。しかし、彼はイスラエルを呪って生きる事が出来たか？彼は、それで平気だったか？いいえ、彼にはできませんでした。それからヨルダン川が分かれました。皆さんご存知ですね。（ヨシュア記3章参照）そしてヨルダン川が分かれて、その後、エリコの壁が崩れました。（ヨシュア記6章参照）私達全員が知っています。ちなみに、戦闘の時、壁は外側から内側に崩れるものですが、エリコの壁は内側から外側に崩れたのです。その前に、イスラエルの民が、ただ街を取り囲んでいた事実は言うまでもありません。街を取り囲んでいた時のイスラエルの民の気持ちは想像がつくでしょう。彼らは契約の箱を運んで、グルグル歩きながら、「この町は難攻不落」だと分かっています。そして彼らはお互いに見つめ合いながら、「俺たちはここで何をしているんだ？」しかし、彼らは歩き続けます。初日が過ぎ、おそらく夕食の間、彼らは互いに見つめ合って言ったに違いありません。「くだらない。こんなこと、止めようぜ。」翌日。再び。そして最終日。何回？7回！彼らは、くだらないと思いつつ、それを7回やっただけでなく、契約の箱を持って7回も歩くのに、どれだけの体力が必要だったか想像できますか？おそらく7回目が終わる頃、彼らは言ったでしょう。「これで終わり！もうこりごりだ！」そしたら壁が揺れて、内側から外へと崩れました。彼らは顔を見合わせて「うん。分かった。」古代の暦の中には、一日、欠落しているのはご存知ですか？その地域に存在していた古代国家から見つかった古代の暦には、ある日が欠けているのです。うーん。なぜか？それはヨシュア記10章12節で、主が、まる一日、全てを止めたからです。

「主が、エモリ人をイスラエル人の前に渡したその日、ヨシュアは主に語り、イスラエルの見ている前で言った。『日よ。ギブオンの上で動くな。月よ。アヤロンの谷で。』民がその敵に復讐するまで、日は動かず、月はとどまった。これは、ヤシャルの書にしるされているではないか。こうして、日は天のまなかにとどまって、まる一日ほど出て来ることを急がなかった。」（13節）

人によっては、日焼けに最適の日でしたね。

「主が人の声を聞き入れたこのような日は、先にもあとにもなかった。主がイスラエルのために戦ったからである。ヨシュアは、全イスラエルを率いてギルガルの陣営に引き揚げた。（14節から15節）

彼らの立場に身を置いてみると、壁が崩れるのを見た同じ人たちです。こういう事は、もう話題にもならないんです。分かった、もうたくさんです。周りの国々は皆、まるでこんな感じに、「どういう事だ？」ヨシュアは驚いたと思いますか？いいえ。だからこそ…

ここから1948年のイスラエル再誕の話です。皆さん、理解してください。それは同じ神の、同じ導き、同じ民族です。私達の初代首相であるダビド・ベン・グリオンがイスラエルの独立宣言を声に出して読んだとき、イスラエル国家が誕生しました。そして、聖書を知っている人々は、皆、その瞬間の重要性を理解していました。そして、置換神学の教師たちは皆、こんな感じでうつむいて、そして、聖書愛する、みことばの教師たちは皆、「わあ…」と目に涙を浮かべました。聖書の歴史の中で、モーセのような預言者たちは預言していました。長く苦しい捕囚の後、ユダヤ人は聖地に戻って、古代ヤコブの相続の地に住み、都を再建して、ユダヤ人国家を再確立する。皆さんに、お見せしたいものがあります。ダビド・ベン・グリオン演説のラジオ放送がイスラエル全土、そして全世界に響き渡ったとき、テルアビブの人々は街の通りで踊りました。しかし、新しく宣言された国家のほとんどのユダヤ人は喜ぶ間もありませんでした。ベングリオンは、宣言を読んだときの心境をのちになって、こう述べています。「私の心には喜びはありませんでした。私は、ただ、私達が戦うべき戦争のことだけを考えていましたから。この地の国境では、トランス・ヨルダン（ヨルダン）シリア、レバノン、サウジアラビア、イラク、エジプトのアラブ軍が猛攻に備えていました。イスラエルが国家宣言をした翌日、アラブの7つの軍隊が「ユダヤ人を海に突き落とす」と誓って、新国家に襲いかかりました。サウジアラビア、ヨルダン、エジプト。これらの国々は、現在、すべて平和を保っています。窮地。1947年、国連は正式に「パレスチナ」を、ユダヤ人国家とアラブ人国家に分割することを承認しましたが、アラブ諸国は、これを拒否しました。ちなみに、彼らは今だに拒否しています。パレスチナ人は機会を逃す機会を決して逃しません。当時、まだパレスチナを支配していたイギリス軍は、1948年5月15日に兵士の撤退を発表しました。パレスチナのユダヤ人たちはひどい苦境に陥っていました。「どうす

る？イギリスが出て行ったら、一巻の終わりだ。」独立を宣言して、戦争をするのか、それとも独立を宣言しないで、戦争をするのか？彼らはパレスチナが英国委任統治下にある限り、自分たちが国家であることを宣言することができませんでした。彼らは独立した主権国家ではなかったため、国際法では、従来の武器の武装や購入方法を禁止していました。つまり、闇市での裏取引以外、シオニストは…イスラエルがユダヤ人の居場所だと信じていた人たちは、武器を購入することができませんでした。アラブ世界が急襲の準備をし、世界の他の地域は背を向けました。当時、アメリカですら、ユダヤ人への援助を拒否していたことはご存じですか？最善の外交努力にもかかわらず、世俗的なシオニストたちは、神以外、誰も頼りにならなことを悟ったのです。たとえ、彼らが神を信じていなくても。ダビド・ベン・グリオンは、最も世俗的なユダヤ人でした。しかし、彼は机の下には、あちこちに聖書の聖句がありました。その理由を彼は語っています。「今、起きていることを説明する唯一の方法は、私がこれらのことを信じているかどうかだ。」イスラエルが生まれたとき、見通しは非常に厳しく、アラブ諸国はイギリス軍の撤退後、すぐにパレスチナを征服できると確信していました。彼らの兵士達は十分な装備があり、かたや、イスラエルの兵士はどうだったか？ご説明させていただきます。彼らはキブツの農民、ヤシバの少年、ホロコーストの生存者、ヘブライ語すら話せない、戦争難民でした。彼らはボートに乗ってやって来たのです。彼らはホロコーストを生き延び、「戦え！」と、制服とライフルを渡されました。彼らは言葉も話せません！「戦いに行け！」ヨーロッパを脱出した人々は、フライパンから戦火に飛び込み、今や何千年も前に物語が始まった聖地で血を流す運命にありました。凄まじいです。そして…奇跡が起きました。奇跡とは、アラブ人が勝てなかった事。奇跡とは、ユダヤ人には飛行機が2機もなく、装甲車を5台しか持っていなかったこと。奇跡とは、パイロットが片方の手で操縦桿を握り、もう一方の手で爆弾を投げなければならなかったことです。しかし、聖書は詩篇147：10で次のように述べています。

「神は馬の力を喜ばず、歩兵を好まない。」

そして、第一サムエル記14:6

「大人数によるものであっても、小人数によるものであっても、主がお救いになるのに、妨げとなるものは何もない。」

そして、詩篇2篇

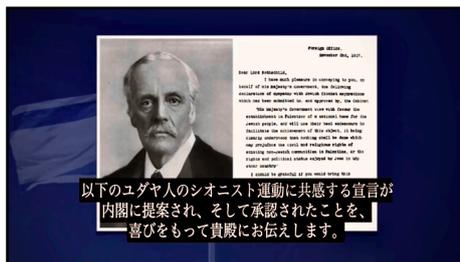
「なぜ国々は騒ぎ立ち、国民はむなしくつぶやくのか。地の王たちは立ち構え、治める者たちは相ともに集まり、主と、主に油そそがれた者と共に逆らう。」（1節から2節）

これは、アラブ人が予想していた楽勝にはなりません。アラブ軍は、誓い通り地図上からユダヤ人を一掃するどころか、パレスチナからユダヤ人を追い出すことに失敗しました。そして、その小さな新しい国は侵略者を撃退し、戦争が終わる頃には、少なくとも20~30%国境を拡大していました。それが神の御手ではないと言うなら… その戦争をヘブライ語では「独立戦争」と呼んでいますが、アラブ人は、それを「ナクバ/大惨事」と呼んでいます。彼らは、こんにちでも、そう呼んでいます。1973年、恐ろしいヨム・キプール戦争。（第四次中東戦争）ご存知かも知れませんが、その日のうちにユダヤ人は…この日だけはすべてのユダヤ人は、宗教的でない人でも、その日を尊重し、皆、家にこもって飲食せず、そして彼らの多くは、シナゴグに行きます。おそらく、年間を通して彼らがシナゴグに行く唯一の時期です。それが、その、1973年10月6日でした。シリアとエジプト側から奇襲があり、ヨルダンも、その事を私達に警告していたのに、我々は信じませんでした。そして大贖罪日、エジプト兵10万人が南からイスラエルに侵攻し、1400台以上のシリア戦車が、北からイスラエルに侵攻しました。南から来るイナゴの群れのように。ある時点で、イスラエルの3両の戦車は150両のシリアの戦車に直面、弾薬はほとんどなくなっていました。そこで司令官は彼らに言いました。「そこに留まって、あなた方の間で連携するのだ。戦車が1台前進するたびに発砲して後退し、次に別の戦車が前進、発砲して後退し、3番目の戦車が前進して発砲する。彼らに、こちらが大勢いると思わせるのだ。」こちらの弾薬が完全に尽きる頃には、シリア軍は踵を返して去って行きま

した。3台の戦車が大勢だと思って、150台の戦車が去って行ったのです。こんな話もあります。小隊が地雷原につかまり、彼らは、どうすれば良いのか分かりませんでした。夜が明けると、彼らは丸見えです。そこへ、どこからともなく強い突風が吹いて来て、彼らは身をかがめて、身を隠さなければなりません。その風は、ほぼ20分～30分間強く吹き続け・・・真夜中に！風は、そのようには起こりません。あちらでは絶対にありません。そして風が止むと、地雷が全部露出していて、彼らは、その地雷の間を歩き、夜明けになると、彼らはいなくなっていました。ヨム・キプール戦争の頃のイスラエルは防衛力が、ほとんどありませんでした。イスラエルが完全に不意をつかれ、多勢に無勢ただけではありません。イスラエル兵の大多数が、最も弱っている状態でした。彼らは皆、過去24時間断食していましたから。戦争2日目、ゴルダ・メリアは受話器を取り、リチャード・ニクソンに電話をかけてこう言いました。「大統領、アメリカが48時間以内にイスラエルを助けてくださらないと、イスラエルは立ち行かなくなります。」ニクソン大統領は、しばらく黙って…なんといっても、夜中の午前3時ですからね。そして彼は言いました。「ゴルダ、一つお話ししましょう。私が子どもの頃、母は毎晩聖書の物語を読んでくれました。」ちなみに、彼はクエーカー教徒でした。そして彼は言いました。「ある時、母が、神がイスラエルのために戦われ、イスラエルを救ったところを読んでいて、そして母は私に言いました。『リチャード、私に約束しなさい。ユダヤ人を救うチャンスがある時は、必ず助けなさい！』そして、彼女は聖書の残りを読み始めました。」そして彼は言いました。「ゴルダ、私は初めて、なぜ自分がアメリカ合衆国の大統領になったのか、理由が分かったよ。」彼は電話を切り、そして国防総省に電話して、第二次世界大戦以来最大の軍備の空輸を命じました。素晴らしい話です。「涙の谷」という話を、皆さんに読んでいただこうと思います。もう時間がなくなって来ました。

もう一つ驚くべき話があります。1991年、サダム・フセインは39発のミサイルを発射していました。1991年の湾岸戦争では、イラクは、イスラエルに対して化学兵器を使用すると脅してきました。紛争には積極的に参加していなかった国です。私達は、そこを出ていたのです。アメリカは、そこにいました。連合軍は、イスラエルがそこに居ることすら認めませんでした。父ブッシュ大統領は、イスラエルに国家安全保障顧問を派遣し、シャミル首相の行く所全てに尾行させました。彼が戦争に参加しないように。我々は、攻撃されたのです。しかしアメリカは我々が報復しないようにしました。アラブ人がユダヤ人に敵対、とならないように。しかし、化学攻撃は一度も起きていません。なぜでしょう？不思議なことに…これをお聞きください。風のパターンが通常の方法から変化し、イスラエルから、まっすぐ東のイラクに向かって吹くようになり、イラク人は悟ったのです。「今、化学兵器攻撃を行ったら、自分たちに返ってくる。」そして米軍は、イラクが化学兵器を使用しない決断を下したおもな理由は、異様な天候の変化であると推測しました。その風の為に、イスラエルへのあらゆるガス攻撃がイラクにも被害を与えますから。39発のスカッドミサイル。驚愕です。イスラエル人に死者は出ませんでした。イスラエルでも、最も人口の多い地域に送られたのに。2014年。ハマスが言ったことをご覧ください。1つ先に進みましょう。新聞のこの見出しをご覧ください。「イスラエルの奇跡：ガザ地区のハマスが苦言。『彼らの神は空中で我々のロケット弾の進路を変える』」彼らは文句を言いました。2015年。この年の夏、ハマスは、イスラエルが民間事業計画の為に支給した物資を使って、武器の輸送やイスラエルへの侵攻を可能にするトンネルを建設していたことが明らかになりました。2015年7月17日までの数週間の間ハマスのテロリストは、スファの農村の近くで、トンネルの終点に適した地域を見つけました。それは完璧でした。その当時、その農村の人口密集地を背の高い小麦が覆っていて、イスラエルには勝ち目がありませんでした。しかし、テロリストは、明らかに信仰の力を勘定に入れていませんでした。ユダヤ人の習慣によると、聖書に基づいて、安息年を取る前に収穫するよう農民は義務付けられています。安息年はイスラエルでの収穫は禁じられています。そして7月17日、テロリストたちが完成したトンネルを抜け出すと、そこには何も無い空き地が広がっていました。そして、この攻撃未遂事件は、たまたま安息年が始まった直後に起こったので、宗教的な農家は収穫していなかったのです。だから、ここで彼らは露呈し、殺す相手が一人もいませんでした。隠れるための背の高い小麦がなく、テロリストは、すぐに発見され、イスラエル国防軍によって迎撃されました。大虐殺になるはずの出来事が回避されたのです。皆さん、言っておきますが、アメリカの政治でも、多くの人がイスラエルを好きではありません。1948年のトルーマン大統領は、イスラエルを国家として認めようとした事で、最大の反対に遭わざるを得ませんでした。彼の回顧録を読んで居る時間はありませんが、ともかく彼は騙されていました。

彼は間違っただけの情報を与えられ、そして、実際に起こっている事を発見、彼は自分のチームを驚かせました。皆さんに最後の話だけをお読みしたいと思います。「承認に法的な障害はないことを認めつつも、ラヴェットは、さらに一日の保留を要求し、国務省に宣言文を調べさせて、それから、新たな停戦決議案に向けて協力していた国連代表団と、英・仏・ベルギー政府の双方に伝えた。この遅い段階でも、ラヴェットは希望を失わなかった。イギリスのパレスチナ委任が切れる約1時間前の午後5時半、彼はクリフォードに電話をかけ、再び延長を求めた。」そして皆さん、「午後6時11分、ホワイトハウスのチャーリー・ロス報道官は、大統領がイスラエル国家を事実上認めたと発表した。国連のアメリカ代表団は啞然としていた。」ホワイトハウスは国連の米国代表団が知らず、予測していなかった事を発表したのです。どうして？彼は騙されていた事に気付いたからです。「"修羅場"という言葉を使っても、大げさではないだろう...。」この回顧録作家のラスクは回想します。「後で聞いた話だが、アメリカの代表団の一人が、文字通り、キューバ代表の膝の上に座って壇上に上がらせず、キューバが国連から脱退しないようにしたそう。いずれにしても、午後6時15分頃、マーシャル長官から電話を受けた。『ラスク、ニューヨークに上がって、アメリカ代表団の大量辞職を阻止しろ。』」皆さん、アメリカがイスラエルを支持したのは、大統領ただ一人の決議と、決意があつたからです。現代のイスラエルは、違法に設立されたのか？いいえ、神はそれを明らかにされました。「わたしは、あなたがたを連れ戻す。また、すべてを合法的に整える。」英国政府がシオニスト会議に提出したこの宣言をご覧ください。「親愛なるロスチャイルド卿、私は英国政府に代わり、以下のユダヤ人のシオニスト運動に共感する宣言が内閣に提案され、そして承認されたことを、喜びをもって貴殿にお伝えします。『英国政府は、ユダヤ人がパレスチナの地に国民的領土を樹立することを支持し、その目的の達成のために、最大限の努力を払うものとする。ただし、これはパレスチナに在住する非ユダヤ人の市民権、宗教的権利、及び他の諸国に住むユダヤ人が享受している諸権利と政治的地位を害するものではないことが明白に了解されるものとする。』」そして、1920年にサンレモ会議が開催され、バルフォア宣言が中東で起こるすべてのことの法的根拠であることを確認しました。1922年12月。イギリスはパレスチナ委任命令を受け取りました。命令は基本的に「あなた方は、確実にパレスチナがユダヤ人の祖国になるようにしなければならぬ。」



エル書36章8節で次のように述べています。

「だが、おまえたち、イスラエルの山々よ。おまえたちは枝を出し、わたしの民イスラエルのために実を結ぶ。彼らが帰って来るのが近いからだ。」



そして、ユダヤ人の大量帰還に備えて、神は、この死んだ土地に豊饒を語られました。そして、この死んだ土地がどう変わったかをご覧ください。そして、エゼキエル書37章で、主はエゼキエルを乾いた骨でいっぱい谷に連れて行き、それを見せました。そして、エゼキエルは困惑しています。

「これは何？これはひどい！干からびた骨々。死んでいるように見えていても、生きていて、彼らは話し、そして彼らは、とても落ち込んでいて、『私達の骨は干からび、望みは消え失せ、私達は断ち切られる』と言っている！（エゼキエル37:11参照）彼らは、神に忘れられたとっていました。神は仰います。「そうじゃない。

エゼキエル、あなたが預言してわたしの民イスラエルに言え。希望を失うな。このヨーロッパの墓地からあなたがたを連れ出すから。」（12節参照）それで、私は考えていました。「干からびた骨とは誰だろう？」この写真をご覧ください。ヨーロッパの絶滅収容所を解放した兵士が撮影したものです。文字通り、人々は



文字通り、人々は骨と皮だけでした。彼らの目には、希望はありません。

骨と皮だけでした。彼らの目には希望はありません。そして、主は仰いました。「さあ、時間だ。わたしはあなたがたを四方から集める。」（21節参照）そして、主がなされたことを、ご覧ください。神は彼らを、空路、海路、徒歩で集められました…画面一番上の、このエチオピアの人たち、彼らは56日間、砂漠を歩いてスーダンまで行き、そこでモサドとスーダンの代表者が747型機の着陸場を用意し、全席を取り外した747型機には1000人が乗り込みました。それが着陸したときには1001人でした。赤ちゃんが生まれたのです。これは人間がなせるわざではなく、あらゆる困難をものともしない神の御業です。アラブ人が



そこで、モサドとスーダンの代表者が、747型機の着陸場を用意し、

1964年にPLOを設立したとき、イスラエルには西岸がありませんでした。イスラエルにはゴラン高原もな



Or(彼らの目的は、イスラエルの全土です。地図をご覧ください。彼らの意図を見てください。)

く、イスラエルにはガザもありませんでした。ご覧ください。パレスチナ解放機構の狙いは、西岸やガザ、ゴランではありません。彼らの目的はイスラエルの全土です。地図をご覧ください。彼らの意図を見てください。愚かなことに、イスラエルは2005年にガザから撤退し、8,500人が避難しました。そして、見てください。同胞を避難させに来た兵士たちも一緒に泣きました。皆さんに、お伝えします。アラブ人は、すでにユダヤ人が真の所有者であることを理解していました。ご存知かどうかわかりませんが、1918年に、メッカの保安官、フセインが新聞にこう書いています。「この国の



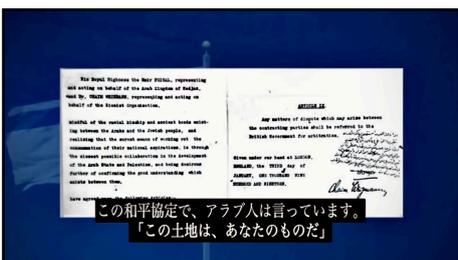
皆さんに、お伝えします。

資源は、まだ未開発であり、ユダヤ人移民によって開発されることになる。最近まで最も驚いたことの一つは、パレスチナ人は故国を出て、公海をあちこちさまよい、彼の故郷の土地は彼を保ち続けることができなかった。同時に、ロシア、ドイツ、オーストリア、スペイン、アメリカから、パレスチナに、海外からユダヤ人が流れ込むのを見てきた。大義の大義は深い洞察力の賜物を持つ者から逃れる事は出来なかった。彼らは、この国が（何の？）元々の子孫のため、それら全ての違いの為に神聖で愛すべき祖国であることを知っていた。これらの捕囚の民の祖国への帰還は、畑や工場、商売、土地に関連するもので、彼らと一緒にいる同胞にとって、物質的にも霊的にも実験学校である事を証明するだろう。」彼らは和平協定を結ぶ寸前でした。ご覧ください。イスラエルの初代大統領であるハイム・ヴァイツマンと、メッカの保安官の息子であるファイサル首長が、1918年、和平協定に調印しようとしていたのです。皆さん、その和平の枠組みの中で、基本的に彼らはこう言ったのです。「イスラエルは、ユダヤ人のものだ。」彼らが、そう言ったのです。しかし、ユダヤ人はアラブ人に土地の開発を頼みました。どこ？周辺全てです。シリア、イラク、レバノン、エジプト。ここはアラブの土地で、ユダヤ人が所有しています。「アラブ国家とパレスチナの境界線は、パリ講和会議後に委員会決定されるべきである。」ご覧ください。調印された和平協定です。この和平協定で、アラブ人は言っています。「この土地は、あなたのものだ」として、彼らは署名しました。ハイム・ヴァイツマンは下に署名しました。でも、アラブ人のやったことを見てください。彼は次のように書いています。「署名する意志はある。ただし、イギリス委任統治領とイギリス政府がこれを尊重する



Dr. Chaim Weizmann and the Emir Feisal, son of the Sherif of Mecca, June 1918

1918年、和平協定に調印しようとしていたのです。皆さん、その和平の枠組みの中で、



この和平協定で、アラブ人は言っています。「この土地は、あなたのものだ」

する場合に限る。」何が起こったと思いますか？この、アラブとユダヤの和平を、裏切ったのは誰か？英国

です。それは、もはや彼らが世界のその地域を支配できなくなる事を意味しますから。皆さん、1917年以前のパレスチナの地図を見てみましょう。これをご覧ください。ここはパレスチナでした。イスラエルとヨルダン、パレスチナでした。そして、1922年7月24日、英国はパレスチナの3分の2を切り取り、ご覧のとおり、アラブ人だけに与えたのです。先に進みましょう。彼らが、それをどのように切り取ったのか、ご覧ください。そして彼らは、その部分をヨルダンの向こう側を”トランスヨルダン”と呼んだのです。その下には何と書いてありますか？アラブ・パレスチナ。つまり、反対側は何でなければなりませんか？ユダヤ人のパレスチナ。なんと、彼らは、こんにちまでそれを受け入れません。彼らは、ユダヤ人のパレスチナもアラブ人にしたいのです。そして、最後はこんな感じでした。ご覧ください。半分ずつ。そして1937年に、ピール委員会がやって来ました。彼らが、どのようにユダヤ人国家を縮小したか、ご覧ください。ただ…ピール委員会は…先に進んでください。ユダヤ人国家は水色です。アラブはオレンジ色です。1947年の国連分割計画に移りましょう。ユダヤ人は、ガリラヤ上部やユダ、サマリア、エルサレムも一切得られません。私達は「可」と言い、彼らは「否」と言いました。終戦後の1949年に移りましょう。我々がどれだけ取ったか、ご覧ください。そして、昨年、トランプ和平案に移行します。私は、トランプがイスラエルを分裂させると言っているクリスチャンが、理解できません。彼らは、気が狂っているに違いありません。トランプ大統領は、イスラエルにとって史上最高の出来事です。スライドを2枚動かしてください。彼が何をしたかをお見せしたいと思えます。はい。彼がしたことを、ご覧ください。賢い。天才。真似したいけど、今はやりたくありません。私の手で、これをご覧ください。これを見て、「私は、2つの国家を差し出している。」しかし、アラブ人が国家を手に入れるためには、その条件を見てください。新たな国境で、イスラエルをユダヤ人国家として承認せよ。エルサレムの旧市街をパレスチナ首都とする要求をあきらめよ。ガザの非武装化。ハマスの武装解除。帰還の権利を放棄し、テロリストの家族への支払いを停止せよ。基本的に、彼は「あなた方は国を得られない。」と言っているのです。これは、彼らのDNAに反しますから。これは全て、あなた方している事だ。それがあなた方の本性だ。あなた方は、人が入ってイスラエルの土地を奪う事を望んでいる。あなた方はエルサレムを首都に求め、テロリストの家族に金を払って彼らがテロリストになるよう奨励している。あなた方は、実際、ガザに”ハマス”という名の軍隊を持っている。」これが彼の言葉です。それから、彼は言いました。「聞きなさい。4年間、考える時間をあげよう。じっくり考えなさい。」だが言うておきながら、我々は、直ちにアラブ人とイスラエルとの和平に署名する。言うておきますが、トランプが反キリストである事はあり得ません。私達が、まだここにいますから。そして、彼が反キリストという事はあり得ません。和平協定は7年間ではありませんから。そして、彼が反キリストである事はあり得ません。反キリストが建設を許す神殿がエルサレムにはありませんから。そして彼は、途中でいけにえの儀式を止めさせます。だからダニエル9:27によると、すべての要件は間違いなく、これではありません。平和はあり得ないのです。ほら、トランプは試すことができます。誰もが試すことができます。しかし、平和の君が戻られるまで、中東に平和はあり得ません。そして、敵は、その奇跡にどうやって終止符を打つのでしょうか？どうやって？私達を殺そうとすることによって。彼らは試したのです。そして、我々がイスラエ



What is required of Israel	What is required of Palestinians
Recognition of Palestinian state	Recognition of Israel as Jewish state in its new borders
Four-year settlement freeze on settlements	Giving up demand for Palestinian capital in Jerusalem's Old City
	Demilitarizing Gaza
	Disarming Hamas
	Giving up Right of Return
	Halt to payment to terrorists' families

彼がしたことを、ご覧ください。賢い。天才。

君が戻られるまで、中東に平和はあり得ません。そして、敵は、その奇跡にどうやって終止符を打つのでしょうか？どうやって？私達を殺そうとすることによって。彼らは試したのです。そして、我々がイスラエ

ルであることを否定することを試みます。彼らは、それをしています。こんにちでも、イスラエルの反動的な行動の為に、神は彼らを永遠に見捨てられたと考える人がいます。しかし、私達は思い出さなければなりません。全歴史を通して、最初からイスラエルは完全ではないことが聖書の中で明らかにされています。実際、エゼキエル書36章で、主が私達を連れ戻すと言われた時、何と仰ったか見てください。

「わたしは、あなたがたを諸国の民の間から連れ出し、すべての国々から集め、あなたがたの地に連れて行く。」 (24節)

まず、あなたを物理的に回復する。そして、次の言葉は？「それから」。「それから」と言ってください。それは「後で」を意味します。最初に物理的なものが来て、「次に」霊的なものが来ます。イスラエルが信じる事は、まだ期待してはいけません。彼らは信じるようになります。いつかご存じですか？自分たちが突き刺した者を仰ぎ見るとき。(ゼカリヤ書12:10参照) イエスが再臨される時。さっき歌ったように。そして、イエスの足がオリブ山に立ち、彼らは主を仰ぎ見て、嘆き悲しみ、泣いて、悔い改めます。(ゼカリヤ書12:10、14:4参照) 残念ながら、それは大患難の後に起こります。そこからマラキ書3章に戻って、結論です。マラキ書3章をご覧ください。神は仰います。

「わたしのところに帰れ。そうすれば、わたしもあなたがたのところに帰ろう。——万軍の主は仰せられる——しかし、あなたがたは、『どのようにして、私達は帰ろうか』という。人は神のものを盗むことができようか。ところが、あなたがたは、わたしのものを盗んでいる。」 (7節bから8節a)

それから、ホセア書5:15で神の仰ることをご覧ください。「わたしはわたしの所に戻っていよう。」イエスは来られて、そして主の場所に戻られました。「彼らが自分の罪を認め、わたしの顔を慕い求めるまで。彼らは苦しみながら、わたしを捜し求めよう。」イスラエルにとって、大患難は恐ろしい時代です。しかし、聖書には、これはヤコブの苦難の時であり、神が、そこから彼らを贖うと書かれています。皆さんにお伝えします。神はイスラエルを見捨ててはおられません。イスラエルは奇跡であり、イスラエルは神の忠実さを表しています。そしてイスラエルは、神が契約に真実であられる事の皆さんの保険証書です。皆さんは、今日、主に従わなければ時間がありません。皆さんに、お伝えしたいことがあります。携挙は、今すぐにも起こり得ます。そして、皆さん、お伝えしますが、今日が救いの日です。明日ではありません。先延ばししないでください。イスラエルは神の真実さの見本です。神は、皆さんの関心を惹きたいのです。神は、あそこで主の国を利用して、皆さんに伝えようとしています。「わたしは、あなたを愛している。わたしが、イスラエルを愛するのと同じように、今や、あなたは、わたしの民だ。かつては、わたしの民ではなかったあなたがたが、今では、わたしの民だ。わたしは、あなたがたを束縛からキリストにある自由へと呼び出したのだ。暗闇からキリストの驚くべき光へと。」しかし、あなたが信じなければ、その光を見つけることはできません。そして、十字架上のイエス様の完成された御業に信仰を置かなければ。主は、あなたの為に死ぬ為に来られ、イエスはイスラエルの王です。イエスは、イスラエルを救うために来られます。しかし、イエスは、あなた方、異邦人を救うために2000年前に来られました。あなたは今、神の近くに押し出されたのです。あとは、あなたがイエスを受け入れるだけ。異邦人の時代は、終わります。そして、イスラエルは救われます。扉が閉じられた時、外に立ってたくはないでしょう。あなたのともしびに油を入れて、花婿が来る時間に備えてください。いつ来られるのか分からないのですから。

お父様、私達はイスラエルという名の奇跡に感謝します。あなたの驚くべき忠実さを何度も何度も示して下さったことに感謝します。彼らが、あなたとともに歩んでいなくても、あなたはアブラハム、イサク、ヤコブとの約束を常に思い出すことを選ばれました。お父様、私達は、あなたが彼らにしてくださったこと、彼らにしてくださっていること、そしてほとんどの場合、あなたがこれからなさることに感謝します。ユダヤ人の救いを祈ります。イスラエル国民の救いを祈ります。だれもキリストを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。イエスは門です。唯一の道、唯一の真理、唯一のいのちです。主イエスを通してでなければ、だれひとり、あなたのみもとに行くことができません。そして、お父様、多くの方がイエスを発見し、大患難の前に主を信じ、彼らが免れることを祈ります。しかし、あなたがまだご

計画を持っておられることに感謝します。あなたにはご計画があり、最後にはすべてのイスラエルが救われます。そしてお父様、私達はエゼキエルの時であるこの時代を生きていることに感謝します。私達は預言が成就する時代に生きています。また、多くのことが与えられている人には、多くのことが求められていることを知っています。今、あなたの御前に聖い生活を送ることができるように助けてください。私達の救いの希望と、あなたが、あなたの花嫁を連れて行く為に、すぐに戻って来られるという祝福された希望を思い出させてください。あなたに感謝し、イスラエルの聖なる方の御名において、あなたを祝福します。イエシュア・ハマシアハ、メシアなるイエス、平和の君、主の主、王の王、ユダ部族の獅子、神の子羊、インマヌエル、主の御名によって、祈りをお捧げします。神のすべての民は言います。

アーメン。



← スマートフォンなどのカメラで読み込むと、YouTubeのメッセージが見れます。



メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel :<http://beholdisrael.org/>

ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ>

2020.01.13 (Wed)